

303
6
5

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

始





新刊卷五

才言未 才久初
從而定補以 也若狂



湯子の代に之食てゆわいのこのたやうくきいせき
 下り一辰清別當守静の時りてあり責所へ...
 後傳て西園寺入道...
 仙當...
 此...
 時...
 書...

湯所りの多地ありて...
 一なる...
 井井橋...
 此...
 仙洞...
 但...
 乃...
 乃...

まはるるなりなるへし 社に仁義と云ふるす内は
之武とまの旨治又五十一ヶ此政要印定て未代乃道
とよまけさ皆治にれ候とて早に都鄙の鏡とす代
の若れあういされけりし外ははやく此所来子まこし
終るに

一 順徳院の所代は 諸道代 宿とくち 遠保のころ内裏園院
より所ふりびくのあまの 若何非元人よと云れ候奉行す
に候は非元人の所上とてものびる人まは 雅言とす病
つるに川やまは 宿所つとまにさわけれこしこれに初定
して内証され候りたりけり 但白雲と申すや
若故に候りしやまの 散状のいめとて所請より侍り
らりまらまて 若何の播比の度と 御侍とて 諸道比中の

丁まの候りてひりしこいより侍りたるは 若何の
氣を侍りしんて 秘夜く場とすいけり けれは人
皆平代とらるるまの 樂のいまくと 詠曲
ありし 信然 資雅朝 宗平なりと云れ 終り又若何

御保つるらつたり 列初あま 庄上候定て 一とく
りめよりくれこし 初や 庄とてりりくれいりわふ
ふててくこしてあまぬく 照しころ 詠をれける 此に
くけとくこしなむりしういし 詠しりけれは 川より
あしと 所代とてりあきて ころま 初同しあはりし
のうらりしとてりりてういし 字代りりやうり 若くは
又若何の秘夜とて 諸道比の 三反相すると云れ 一とく
所代とてりあて 若何の 秘夜とてりりて 若くは

人々其のくしりしこがくをけしこく初冬よまていせき皆け
ちりり銀舞くらあわさのくれい天の御来一具乃るるに
いとくんにさてまふあふけら後ハひくへく君れ細思そ
あまふりの仕をしもをけき多るりふさやかり思すうい
こけらさうへへ唱へん人城一と氏とくくじい王道れ権偏
りありんこも雨霧乃降あふれとふあもさふて侍々々奉
り回すも朝夕のまふさの随をすことく世世浮へし
と陣と志者そとんけのゆふらりありあふらんとこ
天動あふれこれし日中なることくはくくあに侍々々奉
りさうていれふれ侍し初冬の翌日、康克城清使よて
下付るるこれけらい歳人所くは也城しそがくへし奉るれ
にすあふらんとあふらんとあふらんとあふらんとあふらんと又
けん量也

清涼殿のなす地のは厨子つねく控候つらありてあ
んんゆいれとて一貴つしととさまや下付をくくされあ
これしありてまむられむね成るをし貴けりあふらんと
にくまいれ左れをくまふり給ては厨子成清涼殿し
めりてなす地こくくしける侍れとてこれこれ候あ
なとさやてまの御法うれなすやうい高上城いささひ
清涼のひむがしむい清涼の西のわね海子くらうていん
けしむらうと所清涼のさるるれこれれ上こさるれさる心
ら也まふらぬは城まふらぬは城まふらぬは城まふらぬは城
まふらぬは城まふらぬは城まふらぬは城まふらぬは城
と置るるは城まふらぬは城まふらぬは城まふらぬは城
らりて儀をうむらぬは城まふらぬは城まふらぬは城まふらぬは城

嗚呼へり外られ一向にれははりまゝにさうとれんめ
 られはつる一儀しゆらん言とらんりく限てのりうん
 けうけんをいれはりてくがやうれるるる一定に傳りやわら
 ちるにけうくも東に為儀妙音院の正派うしるはるうん
 一々の少ぬこいこれハ守りぬらけぬなり成者多れこれ
 中しちりあるる未代りある也蓮花寺よりり向てありて
 高木庄二寺
 まちへりて寮の法馬成法てつたは若所冬を木のり
 成り入るは所よりんありやありこれてうく法回者り
 一うくハ例成のりて法者あり多れこし能とけあるありて
 修りありて法て後ハ法にほはるるありやありはるる
 と初者あるる法成若所冬一々ありてうくに法回し
 多れはもくありゆ編りあるこいりち氣ありけり法はるは

妙音院

一 妙音院乃湯弟子いいふと見れば昔乃法眼種性にてし侍り
 本を相國徳門惠行の時 院のを習ハ十六人師お定して諸國
 へちいりてうい妙音院より此よりりて尾膳國へ法高あり
 且ふ一坐れ法くニ度乃配流さこれくのじくありあり
 くに侍れ種性これ未代りありて女ありていこふ物
 成りてありて法配可くまはりぬに侍り此所よりり
 ちちく思りたりありありありありありありありありあり
 一と法はしりやうかよく浮法り事を法漢儀ありてけ
 じ法性これ成記はやく二巻りなりぬこれ成東屋談さ
 すとわくれこ血脈ありありありありありありありありあり
 白子傳法くこいの二巻り侍りありありありありありありあり
 法成百貫りこりありありありありありありありありあり

されこれいさといふもよぬ面目のさあすいゝひん
 うへてあひをいひけりささあひさく公許をくれはり
 夕のにはほろと怒心乃のうらむさくさるりふくもの思ふ道心
 がこゝて山をすこあさきと治あるいふすさくつそ
 かやうい後まの西園寺入道成さる廣なるゆふとそこれ
 因院のよまるれは二門よりあひらるるうさよまてそ治め
 されこれいさくおひささくさるわていとすさりあ
 三ノも治これしも終乃さる治まにるれあひらるる
 人よあこれこゝと源とれこよや所を治さす
 ののじんもあつさうとむとけりせんくてもやさ
 所はあはくはるにありさあしりくてもやさ
 寶珠へんじくわあひてくれえ代なる塩馬の白糸のひらいて

あまはあけいさふくさるるあさくせんくちらぬ
 うさまはうは威勢あるさうさ白川の治雲のまはさるる
 下絵一の一期うてかきり治まゆかきりあ
 也これあつねんころとれけるいさうかきりさるる
 風音のめは治乃の息くせん人乃さるるさるるせん
 とうは治ける福社の権柄ありさうくをねんくれは道
 ありそとけれくはり後まの白龍くさるる道心く
 けりまは治ふるこの治め成一人の所じすたに
 さらり治ぬあはさまやれうさくかきりさるる

一 岩道くさるる治人たまは後高念院のうさくさるる
 下絵一のく大宮のくはるる治まゆけりさるるかきり

かやういふはとつこゝと。景徳の後ハ若道院やてさうした所之れ
あり北巴乃一道の妙首院とてとりまはせりといふ所
まゝいふとくろり一宮綾小路二点祝日下を所なり北巴院也
かやいふは所高重なることさきさきり給所高重なり後ハ
まゝいふはゆかりとありあはれといふことさきさきり給所高重なり後ハ
女官武乾門院これハ法皇の御法成給く所なり一も
法皇の御時ハ皇居宮を御國母とて所入内あり一法皇の御時
小け人おさまりて後ハ法皇の御時ハ一も法皇の御時ハ
一侍たり 後北川院これハ所流と給くことさきさきり
まゝいふは法皇の御時ハ一も法皇の御時ハ一も法皇の御時ハ
御の時ハ法皇の御時ハ一も法皇の御時ハ一も法皇の御時ハ
けるキ一なることさきさきり給所高重なり後ハ
まゝいふはとつこゝと。景徳の後ハ若道院やてさうした所之れ
あり北巴乃一道の妙首院とてとりまはせりといふ所
まゝいふとくろり一宮綾小路二点祝日下を所なり北巴院也
かやいふは所高重なることさきさきり給所高重なり後ハ
まゝいふはゆかりとありあはれといふことさきさきり給所高重なり後ハ

一 我を以て通えはとてこれハ若道一なることさきさきり
若敷とてまゝいふはとつこゝと。景徳の後ハ若道院やてさうした所之れ
あり北巴乃一道の妙首院とてとりまはせりといふ所
まゝいふとくろり一宮綾小路二点祝日下を所なり北巴院也
かやいふは所高重なることさきさきり給所高重なり後ハ
まゝいふはゆかりとありあはれといふことさきさきり給所高重なり後ハ
女官武乾門院これハ法皇の御法成給く所なり一も
法皇の御時ハ皇居宮を御國母とて所入内あり一法皇の御時
小け人おさまりて後ハ法皇の御時ハ一も法皇の御時ハ
一侍たり 後北川院これハ所流と給くことさきさきり
まゝいふは法皇の御時ハ一も法皇の御時ハ一も法皇の御時ハ
御の時ハ法皇の御時ハ一も法皇の御時ハ一も法皇の御時ハ
けるキ一なることさきさきり給所高重なり後ハ
まゝいふはとつこゝと。景徳の後ハ若道院やてさうした所之れ
あり北巴乃一道の妙首院とてとりまはせりといふ所
まゝいふとくろり一宮綾小路二点祝日下を所なり北巴院也
かやいふは所高重なることさきさきり給所高重なり後ハ
まゝいふはゆかりとありあはれといふことさきさきり給所高重なり後ハ

ふーすまきーい風信とて入るーいーい法遊北山
斗也るくーいけれーいりい白馬なとーい一法遊は
このけ家の地へ戻し他へ入るーいけらうや若殿と
ーいとも終る此に若殿とーいい此のやれ一やと
ま分治く此

一 澄覺僧都 此も法守とてうーいーい一い一い
まぐれい若道すうて灌頂とてはくーいれりい
あへ侍り

一 宮守の別當 權清々らしくおけりつて若道とて
いりれりり中清とてつーい挑して若道とて
合けれい此若道とて若道とて若道とて若道とて

若道とて若道とて若道とて若道とて若道とて
まぐれい若道すうて灌頂とてはくーいれりい
あへ侍り

一 攝多入相家孝とてうーいーい一い一い一い
まぐれい若道すうて灌頂とてはくーいれりい
あへ侍り

にほくさくに同へ侍り昔若道一あるにけり
清原のいふとありてくれし三月の徳成をなれぬ人
やまのぬき也こりなれけれ樂に侍りあるそ
るちやうし
此のいふしにて存宗八十八歳をうら
む時若道の氣を
れ取りてあつたに三年し一とありう
まのつねをけり
天正元年
のいふありと有又とありある
し侍りけれ若道の氣を
にほくさく樂にて若道けり
給曲こり
若道三年
ころり侍りて若道より六十六
つらりも
とありてつらりけれ
うらとある
し侍りけれ
若道長用
ころり侍りてとこり
くれ
これ中
の樂に侍り
のいふ

ありてくれり
とありてつらりけれ
うらとある
し侍りけれ
若道長用
ころり侍りてとこり
くれ
これ中
の樂に侍り
のいふ

一刑部左補藤原仲良これも若道の弟也
ふとありてつらりけれ
うらとある
し侍りけれ
若道長用
ころり侍りてとこり
くれ
これ中
の樂に侍り
のいふ

一 大佐守 柳仲季 此ハ若何ハオモヒトヤウニシテ侍付ハ秘曲
と仕立セヨウニシテ侍付ハ権願トシテ有ハ権道
ノ門オモハハシキ也 此ハ例ノキニシテナシクハシテ
此弟子ノコトハ侍付トシテ一期ナシテ侍付此弟子
セシクモコト侍付トシテ一期ナシテ侍付此弟子
此弟子ノコトハ侍付トシテ一期ナシテ侍付此弟子

一 左をゆき左を敏 此ハ若何ハオモヒトヤウニシテ侍付ハ秘曲也
此弟子ノコトハ侍付トシテ一期ナシテ侍付此弟子
テ後ハコトハ侍付トシテ一期ナシテ侍付此弟子

一 此ハ若何ハオモヒトヤウニシテ侍付ハ秘曲也
此弟子ノコトハ侍付トシテ一期ナシテ侍付此弟子
テ後ハコトハ侍付トシテ一期ナシテ侍付此弟子
此弟子ノコトハ侍付トシテ一期ナシテ侍付此弟子

一 此ハ若何ハオモヒトヤウニシテ侍付ハ秘曲也
此弟子ノコトハ侍付トシテ一期ナシテ侍付此弟子
テ後ハコトハ侍付トシテ一期ナシテ侍付此弟子
此弟子ノコトハ侍付トシテ一期ナシテ侍付此弟子

五言見物

ことばのうしろをりくわきそ
 の草下しん順徳院の清宇と
 こすこすくくれい海との閑解り
 いりきりたるこゝろをその庭と
 笑れげむとわかつたあやうさ
 ころにいつて、わづらひける
 らるうさよふれは、これと
 小女りうらわらふつけてさ
 までとらふたとおほくれい
 おれらうや、こゝろのち
 こいけうおひひりくわき
 せきふの三つて、こゝろ
 せきふの三つて、こゝろ

せきふ

右通子持	内侍后清	門才	名流丸傳
備原局	右持傳	右通監	右持杖
右家高林	右持傳	礼樂三條	右持杖
地下伶人	右持傳	日門才	右持杖
右家高林	右持傳	三江宮	右持杖
妙有院	右持傳	法皇所親	右持杖
日經宮	百通原	日小水	右持杖
右通太	右持傳	右通好園	右持杖
右内新清南	同許准	母宮同	右持杖
右通追	賜所領	此理右	右持杖
日經宮	右通	備原局	右持杖
右通法	右通	妙有院	右持杖
相文	右院	右持杖	右持杖

帝所侍	宗親孝後坊	長山内下宗	所遊坊
頭内侍	沙比俊合時	右後左衛門	少門御
二重内侍	十右衛門	宗親門才	中録
右秀	成和	源光	宗親
法持	宗在	心海	通房
高良	弁		

文机談卷第五

一 若通の子孫あり侍人二女尾張内侍法石遠傳

此世ハ辛一ありつゝ一く一もやうし一れ一り一ハ一
 権頂城ニ一く一の一に一侍一奴一と一は一
 一これ一も一す一て一も一あ一やく一平一あ一う一か一る一り一文一此一若一通一
 一此一城一ハ一る一ん一侍一了一す一え一む一や一の一人一は一成一る一と一
 一此一勅一給一し一と一さ一て一ハ一一と一く一な一う一と一宗一階一之一但一わ一り一る一れ一
 一ハ一在一階一る一し一う一此一の一道一心一を一こ一て一お一家一を一れ一け一り一分一三一れ一
 一ハ一休一下一ふ一り一て一す一ふ一母一を一此一論一の一け一う一と一る一と一若一守一の一さ一め一
 一ハ一れ一け一り一ハ一こ一の一り一を一う一白一終一つ一し一わ一ん一け一り一ハ一と一え一乃一の一ゆ一る一れ一ハ
 一う一て一こ一も一と一も一と一こ一と一を一わ一す一は一ほ一ふ一は一山一乃一の一や一う一と一う一て一す
 一と一り一し一と一り一な一り一わ一り一の一う一と一道一心一を一め一て一後一介一を一け一り一れ一わ
 一り一と一り一の一う一と一り一し一と一り一と一り一し一の一う一と一り一し一と一り一と一り一し一と一り一

わたりつゆきと一々れこい々々一同入すやするはれ
し々々一あむうここくやしくさめてゆきなりとらり
々り守家宮内白女家母儀ハ湯懸所ニシテ我々の湯也
こねてまひり終一守家病を癒してしをり一又我
こきこ終一さいねの終子うて左馬頭能懸してをり
書房才子もあまうのへ終一後一ハ三終とらの戸こり
あまうに介一これ叫一してするあむ守りひつこり一
あまう一六無ハ守一しゆり一ハ一ハ我取一ハけり
守家活のまれ一ハ後ハ守家一ハ守一ハ入てあまう守
まね侍一ハ人ハむす也一ハ終一ハ守一ハあまね侍一
れこり一ハ守一ハあまう一ハ侍一ハ守一ハれ一ハ内侍のつねれ

わたりつゆきと一々れこい々々一同入すやするはれ
し々々一あむうここくやしくさめてゆきなりとらり
々り守家宮内白女家母儀ハ湯懸所ニシテ我々の湯也
こねてまひり終一守家病を癒してしをり一又我
こきこ終一さいねの終子うて左馬頭能懸してをり
書房才子もあまうのへ終一後一ハ三終とらの戸こり
あまうに介一これ叫一してするあむ守りひつこり一
あまう一六無ハ守一しゆり一ハ一ハ我取一ハけり
守家活のまれ一ハ後ハ守家一ハ守一ハ入てあまう守
まね侍一ハ人ハむす也一ハ終一ハ守一ハあまね侍一
れこり一ハ守一ハあまう一ハ侍一ハ守一ハれ一ハ内侍のつねれ
わたりつゆきと一々れこい々々一同入すやするはれ
し々々一あむうここくやしくさめてゆきなりとらり
々り守家宮内白女家母儀ハ湯懸所ニシテ我々の湯也
こねてまひり終一守家病を癒してしをり一又我
こきこ終一さいねの終子うて左馬頭能懸してをり
書房才子もあまうのへ終一後一ハ三終とらの戸こり
あまうに介一これ叫一してするあむ守りひつこり一
あまう一六無ハ守一しゆり一ハ一ハ我取一ハけり
守家活のまれ一ハ後ハ守家一ハ守一ハ入てあまう守
まね侍一ハ人ハむす也一ハ終一ハ守一ハあまね侍一
れこり一ハ守一ハあまう一ハ侍一ハ守一ハれ一ハ内侍のつねれ
わたりつゆきと一々れこい々々一同入すやするはれ
し々々一あむうここくやしくさめてゆきなりとらり
々り守家宮内白女家母儀ハ湯懸所ニシテ我々の湯也
こねてまひり終一守家病を癒してしをり一又我
こきこ終一さいねの終子うて左馬頭能懸してをり
書房才子もあまうのへ終一後一ハ三終とらの戸こり
あまうに介一これ叫一してするあむ守りひつこり一
あまう一六無ハ守一しゆり一ハ一ハ我取一ハけり
守家活のまれ一ハ後ハ守家一ハ守一ハ入てあまう守
まね侍一ハ人ハむす也一ハ終一ハ守一ハあまね侍一
れこり一ハ守一ハあまう一ハ侍一ハ守一ハれ一ハ内侍のつねれ

これよりなり。これより家の町戒りありたにこれけるは二寺
院の上人のてなり。龍継侍これよりなり。雙紙譜此二紙
あり。一よりあり。これより。龍藤ときこ。給ひ。このありや
こ。龍原より。まゝ。り。て。在馬乃。い。れ。給。は。る。母。方。い。ふ。
の。中。御。その。店。て。門。下。の。中。御。て。ま。ま。こ。給。し。年。氏。此
所。む。す。也。龍藤。い。在馬。乃。り。も。罪。を。と。り。さ。く。同。給。
所。望。も。ち。教。う。ま。あ。り。こ。ま。こ。給。ふ。あ。ま。り。さ。く。こ。り。
侍。れ。こ。の。り。り。れ。ま。ま。同。へ。侍。り。此。こ。く。上。年。さ。く。る。い。み
ら。也。を。ま。く。さ。り。あ。り。ふ。人。も。如。法。ま。あ。り。な。り。し。これ。こ。り
これ。も。人。り。て。一。定。さ。く。め。つ。ま。い。し。侍。人。道。こ。り
人。の。い。く。と。同。い。あ。り。ま。い。く。さ。り。ま。ま。ま。い。ま。り。を。有。ま。り。て

ま。ま。り。の。人。々。れ。法。年。忠。さ。く。さ。く。こ。り

一 播磨守 若道 一三 廿七 龍原 ときけり。これ 龍藤 也
母 若れしとれし。後より 質信 三六 一 あり。こ。り。ま。ま。り。教。を
の 母 儀。こ。り。り。り。給。ぬ。ち。道。こ。れ。も。ま。ま。さ。く。り。給。こ。り
若 道。わ。め。り。れ。し。昔。い。ち。所。門。院。こ。り。ま。ま。り。れ。こ。れ
は 内侍 南侍 成。の 所。所。ま。ま。れ。給。し。中。將。河。原。こ。れ。を
し。て。道。成。侍。給。こ。り。ま。ま。り。九。こ。の。ま。い。し。侍。を。西。園。寺。の
へ。後。ま。ま。い。り。ま。ま。鬼。丸。い。可。頼。祖。父。の。て。り。り。ら。こ。り。ま。ま。れ
こ。り。道。成。の。あ。り。ま。ま。り。ま。ま。り。

内侍 南侍 成

...の所産なり... 信長

...の... 信長

...の... 信長

...の... 信長

...の... 信長

...の... 信長

...の... 信長

...の... 信長

...の... 信長

...の... 信長

...の... 信長

...の... 信長

...の... 信長

...の... 信長

...の... 信長

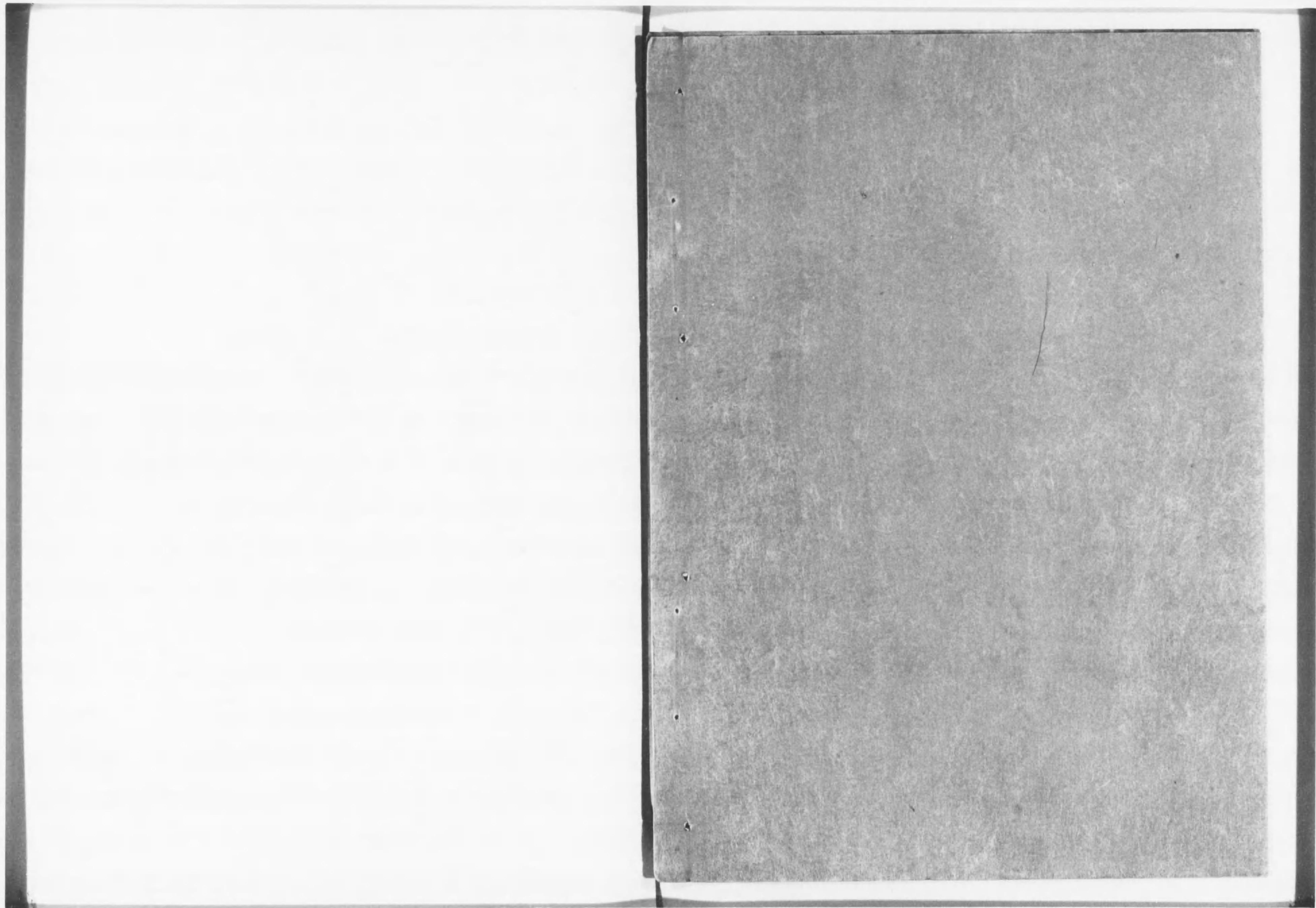
...の... 信長

...の... 信長

...の... 信長

303
6
5





終

昭和十年十二月一日印刷
昭和十年十二月十日發行
第三期第一回配本

編輯者 貴重圖書影本刊行會
代表者 藤堂祐範
印刷者 佐藤濱次郎
印刷所 便利堂
 中村竹四郎
 京都市新町通竹屋町南
 京都市新町通竹屋町南

發行所 便利堂內
頒布 貴重圖書影本刊行會
事務所